

《優秀業績賞》

大阪の橋を題材としたシニア土木技術者による技術伝承、市民広報の取り組み ～シビル・ベテランズ&ボランティアズ (CVV) の活動～

シビル・ベテランズ&ボランティアズに所属する関西道路研究会会員

1. CVV とは

一線を引いた土木技術者がボランティアとして土木事業に貢献するにも、現役時に組織として活動しており、また土木事業は多岐の技術・分野の総合で成り立つことから、個人での参画では限界がある。そこで CVV (Civil Veterans & Volunteers) として組織化し、多様な土木技術者・他分野の技術者が知恵を出し合って社会貢献することを目指し、約 20 年前から関西在住のシニア土木技術者が中心となり活動している。その後、創設期メンバーの高齢化が進んだことから新たなメンバーを招集するとともに、2016 年度から 2 年間、土木学会関西支部共同研究 Gr.としての支援を受け、将来を見据えた組織の在り方を検討してきた。また、土木の産官学いずれの分野でも現役世代への技術伝承・支援が課題になっていることからその具体的方策を検討している。さらに、人手不足を背景に土木広報をさえる若手技術者への支援が必要との認識のもと、その具体策を模索している。

2. 「浪速の名橋50選」の改訂

大阪は古から「水の都」、「なにわ八百八橋」と称されるように「橋のまち」である。現在でも、大正から昭和初期にかけて市電事業、第一次都市計画事業で建設された橋が中之島・大川周辺に多く残るとともに、淀川や湾岸部には様々な形式の長大橋を見ることが出来る。「浪速の名橋 50 選」は、その大阪の橋を紹介すべく松村 博 氏 (元大阪市) が選定し、20 年以上前に土木学会関西支部ホームページ (以下 HP) にリンクされた。その後リンクが外されたが、広く支部選定の 50 選と認識され、最近も問い合わせがある。そこで、支部 HP への再掲載に向け更新作業を行った。な

お、主な改訂方針は、①50 橋は変更しない、②解説は従前文を基本に橋の現状に対応し変更する、③写真は現状のものに差替える、④専門用語に解説を加える、こととした。改訂・再掲載にあたって、文献調査と並行して、橋の現況を把握することとし、CVV メンバーが全橋を訪れて現地調査を行った。現地に赴くことにより、単に構造物としての橋だけでなく、周辺の環境、地域の歴史・文化と橋との関わりなどを肌で多く感じることができた。

3. 「浪速の名橋 50 選」を活用した技術伝承・市民広報の取り組み

その後、「浪速の名橋 50 選」を活用した以下のような取り組みを進めており、これらの活動を継続・発展させるとともに市民向け見学会を開催すべく準備を進めている。なお、改訂作業の成果は学会関西支部のホームページに掲載されている。また、改訂に向けた調査や活動内容は CVV の HP に詳述している¹⁾。

①学生や若手技術者への技術伝承の試行

土木を学ぶ学生を対象に「土木の面白さ」を知らせる活動の一環として、一昨年度から大阪市立大学、関西大学橋梁研究室の学生とともに淀川沿いを歩いて橋巡りを実施している。なお、現地見学に先立って CVV メンバーによる橋の講義 (大阪の橋の歴史、見学する橋梁の歴史・特徴の解説) も行っている。今年度は、関西近郊の大学・高専から広く募集して実施する予定である。



写真-1 淀川の橋巡り

また、国土交通省近畿地方整備局の協力を得て、CVVメンバーと同局若手職員との船による大阪市内中心部の橋巡りと意見交換会を開催した。

②土木学会関西支部「ぶら・土木」への協力

学会関西支部の若手技術者交流の場である「ぶら・土木」とCVVとのコラボで「なにわ八百八橋めぐり」として「～浪華三大橋から桜宮橋まで～」、「～中之島に架かる橋を巡る～」と題したイベントを2回実施した。昨年度は中之島図書館にて大阪市の都市計画の歴史や各橋の概要、それぞれの橋にまつわるエピソードなどを学んだ後、CVVのボランティアガイドの案内で橋巡りし、橋建設時の苦労話を交え参加者に解説した。

③Osaka Metro「ぶらりウォーク」への協力

Osaka Metroでは市交通局の頃から年数回「大阪・まち・再発見 ぶらりウォーク」を開催しているが、コースに橋梁、河川水門など土木施設が含まれていることから、同社の了解を得て、今年度初めて土木施設の紹介に取組んだ。昨年12月15日に開催された第4回では工事中の淀川大橋の南詰において、橋および工事の概要、陸閘（防潮水門）の役割などのパネルを展示し、CVVメンバー数名が説明役として対応した。多くの参加者が足を止め説明に耳を傾けていたのでもって次年度以降も継続したいと考えている。



写真-2 ぶらりウォーク

4. 「大阪の橋」追補名橋の選定

「浪速の名橋 50 選」選定から相当年数が経過し、新たな橋が建設されていることから、大阪府下の新たな名橋を選び、HP 上で公表することとした。選定方針は、名橋 50 選で適用した項目を

踏襲することを基本とし、土木学会田中賞や関西支部技術賞を受賞した橋を優先した。各橋梁の概要記事執筆に先立ち文献調査を行い、現地調査を行うこととした。紹介記事は、一般人向けの内容として専門用語は極力避けた分かり易い表現を心掛け、橋の歴史や成り立ちなどの架橋までの経緯に多くの解説を加えることに留意した。2017年度・18年度に各 11 橋を選定した。また、「浪速の名橋 50 選」と同様に、これらの情報を基に市民広報や技術伝承の取り組みを進める予定である。

5. 今後に向けて

現地での具体的な活動や学会誌等への投稿^{2), 3)}を通じて CVV の認知度が向上しつつある。

前述のように、少子・高齢化が進展するわが国ではシニア層の活動支援が社会ニーズとなっている。また、一般市民の土木への理解が十分進んだとは言えない中で適切に土木広報していく必要があり、豊富な経験を持つシニア層の活用が望まれる。さらに、維持管理の重要性が高まる中で既存構造物の設計・施工内容を熟知したシニア層の知恵・知識を伝承していかなければならない。「このような社会の要請にいかに応えるかが我々に問われている」との認識のもと、市民広報・技術伝承活動に取り組んでいく所存である。

【参考文献】

- 1) CVV のホームページ <http://cvv.jp/>
- 2) 黒山泰弘：CVV（Civil Veterans & Volunteers）の活動～シニア土木技術者による関西での取り組み～、土木学会誌、Vol.103, No.6, pp.50～51, 2018.6.
- 3) 黒山・古田・野坂・武：「大阪の橋」を活用した技術伝承・市民広報の取り組み～CVV の活動～、土木学会第 74 回年次学術講演会概要集、2019. 9(投稿中)